

常識門は、明治 42（1909）年～明治 45（1912）年頃に建築されたと推定され、昭和 63（1988）年に中野区指定有形文化財となりました。
令和 7 年度、それ以来となる約 40 年ぶりとなる修復工事を実施しました。

●聯（れん）

腐朽し、文字が判読できなくなっていたため、収蔵庫に保管されている現物をもとに 3D スキャナ計測等を行い、複製を制作しました。材はケヤキを使用しました。



Before



修復工事前の常識門の姿

●小脇扉

全体的に腐朽が進み、ゆがみも発生しているため、樹種はスギからヒノキへと変更し、撤去・新設を行いました。



工事前の状態

●本柱

地際と上部が腐朽したため、継木を行いました。材は木曽ヒノキを使用しました。



●建仁寺垣

腐朽・欠損が著しいため、全て交換しました。一部、直接土に触れないよう、根元に玉石を据えました。



工事前の状態

●大扉

框、棧、堅板に腐朽や変形が見られたため、継木を行いました。

